

目次

◆巻頭言 明日への展望……………加藤 三重次 / 1

◆21世紀の建設機械化…………… / 3

新しい生活空間“ニュートピア”の創成(多田和弘)/建設機械の自動化への期待(塩田雄三)/機械化の時代(中村雅彦)/昭和100年のダム施工機械(相原正之)/20××年建設工事現場見学記(鹿島建設機械部タイム・トラベラーズ)/6 to 7(宮崎裕道)/建設と建設機械の未来探検(小峯富夫)/建設現場の無人化施工をめざして(汐川 孝)/建設需要と技術開発(青柳隼夫)/近未来の建築現場(松下祐輔)/ソーラー破砕機(高津壯太)/超高齢国日本と最新技術(伊川悦男)/都市型建設機械の技術課題(高橋政広)/海底構造物の建設(齊藤弘一)/建設機械の無人化(草加浩平)/CONEXPO 2017 見聞記(畝村育成)/建設機械整備業——基本を学び、フレキシブルに対応できる人間になる(卯野伸一)/誰が果実を手にするのか(西尾公志)/流通の立場から見た業界近未来(上田隆幸)

全自動クラムシェル浚渫船の開発と施工実績……………小 池 賢 司 / 29
荒 木 宏

グラビヤ——京浜南運河可動橋梁工事

京浜南運河可動橋梁の施工……………林 紀 夫 / 35
鈴 木 正 靖
酒 徳 一

シールドセグメント組立ロボットの開発……………和 田 雅 史 / 42

移動式クレーンにおける……………杉 本 直 樹 / 47
つり荷自動水平移動装置の開発……………絹 川 秀 樹

◆新工法紹介

シールド機位置姿勢管理システム/自動泥水……………調 査 部 会 / 51
シールド工法/気泡シールド工法

◆新機種ニュース……………調 査 部 会 / 54

◆文献調査

文献目録紹介……………文 献 調 査 委 員 会 / 57

◆ISO規格紹介

土工機械に関するISO規格(19)-2……………I S O 部 会 / 61

◆統 計

建設投資推計ほか……………調 査 部 会 / 66

理事会の開催…………… / 67

行事一覧…………… / 67

編集後記……………(本田・内山・森谷) / 70

◀表紙写真説明▶

TCM R 250 形ロータリ除雪車

東洋運搬機株式会社

本機はロータリ除雪車の機種拡大の一環として250馬力級を開発、建設機械化研究所委託による性能、稼働試験を青森市にて実施し初期の性能、品質を確認したものである。

① 除雪装置：2ステージ形、リボンスクリュウ式オーガ、4枚羽根遠心式ブロワ。特にオーガ径1,300mmにより路肩高雪堤、春山除雪の雪壁の処理可能。ブロワケースは右40°、左65°回転、折たたみシュート360°旋回、伸縮とキャップ操作による投雪位置が自由に選択可能である。

② 車体：キャabinはフローティングキャブの採用で騒音振動が少ない。ブレーキは凍結防止のため全油圧式ディスクブレーキの採用。アーティキュレート機構による回転半径6.7mと小回り。前後進の変換、変速は電気式操作装置4段変速。HST駆動と効率的除雪作業が可能である。

③ エンジン：いすゞ6RB1T、定格出力250PS/1,800rpm、最大トルク117kgm/1,400rpmと粘り強く耐久性に富んでいる。

◀主な仕様▶

最大除雪量……………	1,900 t/hr
最大除雪幅……………	2,600 mm
最大除雪高……………	1,650 mm
投雪距離……………	40 m
走行速度……………	0~40 km/hr
総重量(乗車定員3名)……………	14,135 kg